

平成23年度 仙台市立若林小学校 校内研究

1 研究主題

できる喜びを味わい、進んで運動に取り組む子どもの育成

2 主題設定の理由

(1) 本校の教育目標から

本校では学校教育目標を「心豊かに、たくましく、ともに学び合う子どもの育成」とし、めざす児童像を「心豊かな子」「進んで学ぶ子」「たくましい子」と定めて、教育活動を進めている。

子どもたちに「学ぶ意味と楽しさ」を体得させるために、校内研究を学校経営の中軸にすえ、「学校の生命は授業である」を基に「授業」そのものを問い続けることで学校教育目標の具現化を図っている。また教育活動の展開にあたっては、一人一人の職員が組織体の一員としての自覚をもち、それぞれの専門性や特性を十分発揮しながら連帯感を高めつつ、日々新鮮な教育活動の「創造」に努めている。

(2) 教師の願いから

昨年度は、体育科の研究1年目として領域を限定せずに、学年や学年部のまとまりによってめざす児童の姿を設定し、研究を行ってきた。その際に念頭に置いたことは、児童が「できた」「成長した」「伸びた」と感じられる場面を多く設定し、自信をもって活動にあたることができるようにしたいと考えて取り組んできた。今年度は、昨年度の活動に加えて「体育科における言語活動を生かした授業とはどのようなものか」について各学年で研究を進めることにしている。体育の中で友達とかかわり合いながら自分を高めていくこと、その際によりよい姿を求めて話し合いを進めていくことから一人では考えつかないことを実現していくことの喜びも味わわせたいと考えている。自分で粘り強く努力を重ねることの大切さ、また友達同士で励まし合いながら活動することにより目標に到達することができたときの達成感や成就感を味わわせることができるような指導の方法を工夫していきたいと考えている。

(3) 児童の実態から

本校の児童の実態として、与えられたことはなんとかやれるが、自分から「こうしたらもっとよくなる」と考えて主体的に取り組むことが少ないように感じる。また、高い目標を持ち、友達と協力して物事をやり遂げることが苦手な子どもの姿も見られる。それに加えて言葉の遣い方がよく理解できていないために友達とうまくかかわり合えなかったり、励まし合いながら自分を磨いたり、高めたりしていく場面があまり多く見られないようにも感じている。

3 研究教科・領域

体育、領域は学年(部)で設定する

4 研究のねらい

児童が運動に主体的に取り組む、運動することの喜びを味わうことができるようになるための指導法を、体育科の授業実践を通して明らかにする。

5 研究の視点

(1) 運動の特性を理解し、児童の実態に合わせた授業づくり

- ・児童への質問紙による実態調査
- ・授業時のデータの蓄積
- ・体力・運動能力テストのデータの活用

(2) 言語活動の充実

- ・コミュニケーションを図りながら、教え合い、高め合うための手だての工夫
- ・目標に向かうための話し合い活動の中で、自分の思いを相手により分かりやすく伝えるための指導

(3) 系統性を踏まえた授業づくり

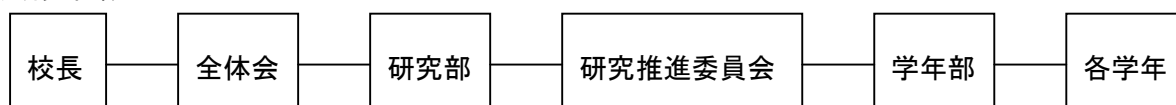
- ・場の設定の工夫
- ・学習カードの工夫
- ・指導過程の工夫
- ・評価の工夫

(4) 体力の向上を図るための計画

- ・運動したくなる環境を考えて整備する。
- ・運動しやすくなる環境を考えて整備する。

6 研究への取り組み

(1) 研究組織



(2) 授業研究について

① 研究の形態

- ・「児童に身に付けさせたい力」を学年部で話し合い、学年ごとに授業研究で検証していく。
- ・授業を通して学級や学年の児童の変容を見ていく授業研究により、研究を進めていく。

② 授業研究等について

- ・全員授業を基本とし、年間に一学級一回以上の授業研究を提案する。
- ・授業研究は、1月までに行うこととし、週の中で集中して行われないうに見通しをもって計画を立てる。
- ・授業には自習の負担を減らすために、学年部から一学級の授業を全校授業とし、他の学級の授業は学年部授業とする。ただし、他の学年部の授業であっても時間の都合のつく場合は積極的に授業ならびに事後検討会に参加することとする。

③ 検討会について

- ・授業後の検討会は、全校授業はワークショップ型の検討会を行い、学年部授業は従来型の検討会を行うこととする。